

①事務事業名		担当 課係	内線	1149
事業コード	京築広域営農団地農道整備促進		農林水産課 農林土木係	
開始年度: 平成	年度 ⇒ 終了年度: 平成			

②事務 の 位 置 づ け	事業の種類	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		
	根拠法令	☒ あり (土地改良法) ☐ なし		
	分野別計画・指針	☐ あり () ☒ なし		
	総合計画の体系 (☒ あり ☐ なし)	5つの柱	2	活力たえ夢あふれるまちづくり
		まちづくりの目標	3	いきいきと働く活力あるまち
		基本方針	7	農林水産業生産基盤の整備
		施策区分	14	農業

③事業の概要・内容(Plan)

事業の概要	広域農道 みやこ町(旧勝山町)～上毛町(旧大平村)延長21.8kmの整備 (うち豊前市区間7.1km)
-------	--

事業 の 内 容	対象(誰を対象としているのか)
	市民、利用者
	目的(何のために行うのか、具体的に) 京築地域の農業振興のため、ほ場整備や農業近代化施設の建設と相まって農産物の流通を確保するため農地と施設と消費地を結ぶ広域農道が建設され、それを適切に維持管理することにより京築地域の農業の近代化を図るとともに、中山間地域の農業集落の利便性を改善する。
	手段(どのような方法で実施するのか) 建設: 県営事業として実施 維持管理: 市単独事業として実施

④事務事業の実施状況・現状把握(Do)

活動 指 標	指標名等(説明・算定式)	単位	H21	H22	H23	H24	H25
			実績	実績	目標	目標	目標
	整備延長	m	6261	7067	7067		
	非常用設備点検箇所数	箇所	4	5	5	5	5

成果 指 標	指標名等(説明・算定式)	単位	H21	H22	H23	H24	H25
			実績	実績	目標	目標	目標
	広域農道の供用率(供用延長ベース)	%	90	90	100		
	指標化(数値化)できない成果						

事業 費	事業費(単位:千円)		決算額		予算額	計画(概算見積もり)	
			H21	H22	H23	H24	H25
	財 源 内 訳	国・県支出金					
		地方債	700				
		その他		240	229		
		一般財源	2,270	6,454	5,645		
	事業費合計 (b)		2,970	6,694	5,874	0	0

⑤事務事業の評価 (Check)

必要性	公共性は	■高い □普通 □低い				
	住民ニーズは	■高い □普通 □低い				
	現時点でこの事業を取り巻く状況に該当するものは	□1 事業開始時と比較して社会経済状況が変化、または目的がすでに達成されたなど実施意識が低下している。				
		□2 ニーズと比較してサービスの供給が過剰となっている。				
		□3 国や他都市の水準と比較したとき、サービスの対象範囲や水準を見直す余地がある。				
		□4 国または県において、同種のサービス提供が行われている。				
□5 民間の活動を阻害、あるいは民間と競合している。						
有効性	上位施策に対する貢献度は	■6 上記に該当する項目はなく、市による事業は妥当である。				
		□1 政策・施策への貢献度が著しく高いとはいえない。				
		□2 政策・施策の目的を実現するためには、実施内容が必ずしも適切ではない。				
		□3 当該事業を現在の実施内容で継続しても、成果の向上が期待できない。				
		□4 類似・重複した事務事業が存在する。(事業名)				
	目標に対する達成度は	■5 上記に該当する項目はなく、上位施策への貢献度を認められる。				
効率性	単位コストの状況は	□非常に高い ■高い □低い □非常に低い				
	事業費や人件費削減の工夫は	□かなりよかった □よかった ■変わらない □悪くなった □かなり悪くなった				
		選択しなかった根拠	□1 従事人員の見直しによりコストを下げる余地がある。			
			■2 事務改善(手順の見直し・作業の効率化・IT活用等)によりコストを下げる余地がある。			
			□3 契約内容の変更によりコストを下げる余地がある。			
			□4 他の実施主体の活用によりコストを下げる余地がある。			
			□5 その他見直し・変更によりコストを下げる余地がある。(受益者負担等)			
			□1 既に活用している。			
			□2 法的に行政職員が行うべき。			
			□3 市民サービスが低下する。			
□4 他の実施主体が持つ専門知識、経営能力、技術力等を活用できない。						
□5 コスト削減が期待できない。						
□6 公平性・公正性、守秘義務が保証されない。						

⑥事務事業の改善 (Action)

所属長所見	今後の方向性等(所属長所見・意見等)				
	平成22年6月3日に小原(築上町)～馬場(豊前市)区間が供用開始。これにより、本市部分は全て完了。今後、広域農道全般の維持管理業務、特にトンネルの非常用設備や照明の保守点検業務が必要。また長期の費用対効果を考え、トンネル内照明のLED化も検討していく。				
評価	- 充実 - 現状維持 - 改善 - 縮小 - 廃止	現状維持	意見等		
		作成年月日	平成23年 6月30日	内部審査	平成23年10月7日